

## 使用前:点検/保守

### ステップ 1 : 使用する前にログスプリッタを検査してメンテナンスする

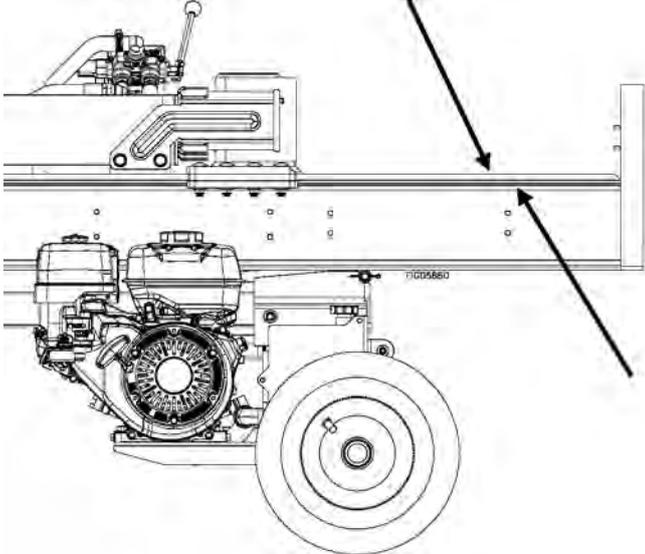
#### 警告

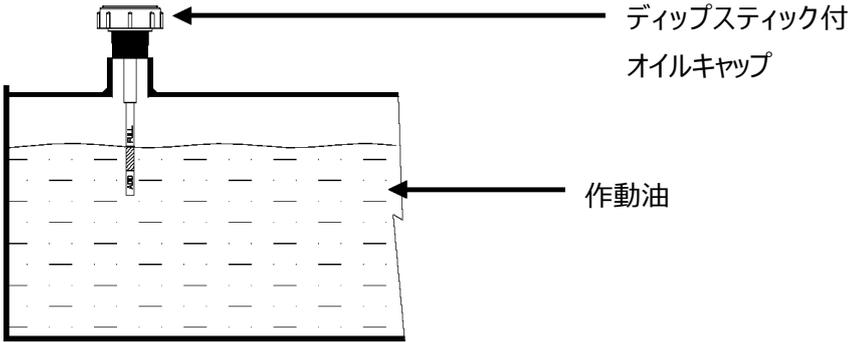
スプリッタの点検・清掃・調整・修理は、必ずエンジンを停止し、システムの圧力を抜いてから行ってください。コントロールレバーを数回前後に動かして、システムの圧力を軽減します。

#### 重要:

部品を交換する必要がある場合は、メーカー純正部品のみを使用してください。適合しない社外部品は安全上の問題が発生したり、ログスプリッタの作動不良の原因となります。

1	エンジンオフ/ リリース圧	1.エンジンがオフになっていて、冷えていることを確認します。 2.プラグを抜いてください。 3.コントロールレバーを数回前後に動かして、油圧システムの圧力をすべて解放します。
2	ゴミの除去	エンジン、マフラー、可動部品のゴミを取り除きます。 1.高温のエンジンに付着した破片が火災の原因となることがあります。エンジンシリンダヘッド、シリンダヘッドフィン、ファンハウジング/リコイルスタータ、マフラー部分のゴミやくずを取り除きます。熱いマフラーに触れないでください。 2.その他の破片:可動部に付着した破片が過度の摩耗の原因となります。ビーム、ウェッジ、ログディスクロッジャーおよびエンドプレートから破片を除去してください。 燃料タンクと燃料パイプに漏れがないか確認してください。 燃料漏れは火災の危険があります。
3	燃料タンク	燃料漏れがないか点検します。
4	機械部品	すべてのナットとボルトがしっかりと締められていることを確認し、ログスプリッタが安全な作動状態にあることを確認します。 ※ウエッジが移動するビームの上部、横、下にグリースを塗布します。

		
5	油圧システム	<p>油圧システムを注意深くチェックします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.すべてのホース、チューブ、クランプ/継手、ポンプ、およびシリンダに亀裂、ほつれ、よじれ、またはその他の損傷がないか目視で点検します。</li> <li>2.漏れの可能性がある油性の残留物がないか、すべてのコンポーネントをチェックします。破損や油性の残留物がある場合は、ログスプリッタを作動させないでください。油圧ラインの小さな漏れは、重大な損傷を引き起こす可能性があり、近い将来、壊滅的な故障の兆候となることもあります。</li> </ol> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>油圧式ログスプリッタでは、高い流体圧力と温度が発生します。ピンホールほどの大きさの開口部から漏出した作動液が皮膚に熱傷を起こしたり、皮膚に穴を開けたりすると、創傷が生じ、敗血症、感染症、身体障害、壊疽、切断、死に至ることがあります。したがって、ログスプリッタの油圧機器の点検・整備にあたっては、常に次の事項に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホース、チューブ、継手、その他のコンポーネントなどの油圧システムコンポーネントを変更または調整する前に、エンジンを停止し、スパークプラグを取り外し、すべてのコントロールバルブハンドルを前後に動かして圧力を緩和します。</li> <li>• 絶対に手で漏れを確認しないでください。漏れは、段ボールや木材を片手で持って、もう一方の端を疑わしい場所の近く(アイプロテクションを装着する)に通すことで発見できます。段ボールや木材の変色に注意してください。</li> <li>• ポンプやバルブの圧力設定は絶対に調整しないでください。</li> <li>• 油圧漏れでけがをした場合は、傷口がどんなに小さくてもすぐに診察を受けてください。見た目には重症ではない小さな創でも、けがに詳しい医師が適切な治療をすぐに行わないと、重度の感染症や反応が生じることがあります。</li> </ul>
6	作動油レベル	<p>作動油のレベルを確認してください。オイルレベルがフルになっていることを確認します。必要に応じて補充します。注意：油量を確認するときは、ディップスティックをねじ込まない</p>

		<p>ください。</p>  <p>ディップスティック付 オイルキャップ</p> <p>作動油</p> <p><b>⚠ 警告</b> エンジンが運転中または高温のときは、給油キャップを絶対に外さないでください。熱い油は、ひどい火傷の原因となることがある。ログスプリッタを完全に冷却してから給油キャップを取り外してください。</p>
7	エンジン	エンジン取説の指示に従って、エンジンの点検及び整備を行うこと。
8	マフラスパークアレスター	マフラーのスパークアレスターを、定期的に掃除し点検してください。破損している場合は交換してください。
9	タイヤ	<p>スプリッタを牽引する場合は、タイヤの空気圧が適正で、適切なメンテナンスが行われていることを確認します。推奨タイヤ空気圧については、タイヤサイドウォールを参照してください。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• タイヤに空気を入れすぎないでください。タイヤが破裂すると重傷を負うことがあります。</li> <li>• 空気圧は 60PSI を超えないようにしてください。圧力が 60PSI を超えると、タイヤとホイールが破裂して爆発する可能性があります。</li> </ul>

## 使用前-給油

### ステップ 2:燃料補給

#### ⚠ 警告

ガソリンは引火性と爆発性が高いです。燃料を扱う際にやけどをしたり、重傷を負ったりすることがありますのでガソリンの取り扱いには十分注意してください。

1	エンジンオフと冷却	エンジンを止めてから、燃料を補給する前に少なくとも 3 分は冷却してください。 ⚠ 警告 動作中のエンジンは燃料に点火するのに十分な温度です。エンジンが動いているときや、まだ熱いときは、燃料を補給したり、燃料キャップを外したりしないでください。
2	補給場所	燃料タンクに屋外で満タンにします。決して屋内で補給しないでください。 ⚠ 警告 ガソリンの蒸気が屋内に充満すると爆発の恐れがあります。
3	燃料キャップ	エンジン燃料キャップを外します。
4	ガソリンを追加	認定された燃料容器から充填口を通してガソリンを補給する。 重要な安全上の注意: <ul style="list-style-type: none"><li>承認された容器を使用する。ガソリンスタンドでは、燃料を直接エンジンに入れないでください。</li><li>ガソリンを入れすぎないでください。補給口の下に 2cm 以上の空き領域を確保すること。燃料膨張の許容範囲</li><li>燃料を補給している間は、熱源、火炎、または火花から離れてください。</li></ul>
5	オーバーフロー	燃料漏れ/飛散物を速やかに清掃する。 1. ログスブリッタを地面にこぼれた燃料から離してください。 2. エンジンの燃料を拭き取り、余分な燃料が蒸発するのを 5 分間待ってからエンジンを始動します。 3. ガスがしみこんだぼろ切れは可燃性であり、適切に処分してください。 4. 皮膚や衣服にガソリンをこぼした場合は、すぐに着替えて皮膚を洗ってください。
6	燃料キャップ取付	エンジンを始動する前に、燃料キャップを確実に締めてください。
7	ガソリン貯蔵	余分なガソリンは、認定された密閉された容器で、低温で乾燥した場所に保管します。

## 使用前:作業場所の選択と設定

### ステップ 3:作業場所の選択とログスプリッタの設定

#### ⚠ 警告

スリップや転倒、機器の転倒・転倒、一酸化炭素中毒、不慮の火災などのリスクを最小限にするために、適切な作業場所を選定し、ログスプリッタを適切に設置することが重要です。

1	場所を選択	<p>ログ・スプリッタを操作する適切な場所を選択します。使用前に作業現場を点検し、危険の可能性を確認する。</p> <p>要件:</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1.足場の良い乾いている場所 泥、氷、高い草、雑草、雪のある場所は避けてください。</li><li>2.屋外 。平らな場所</li></ol> <p>⚠ 警告</p> <p>走行中のエンジンからは一酸化炭素が放出されますが、これは有毒ガスで、人を殺す可能性があります。匂いを嗅いだりしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• ログスプリッタを住宅から離して屋外でのみ作動させてください。 住宅、車庫、物置、その他の建物または半密閉空間などこれらの空間は、たとえファンを動かしたり窓を開けたりしても、有毒ガスが充満します。。</li><li>• ログスプリッタ使用中に気分が悪くなったり、めまいがしたり、体が弱ったりしたら、すぐにエンジンを切って空気を入れ替えてください。医者に診てもらってください。一酸化炭素中毒の可能性あります。</li></ul>
2	火災時の注意事項	<p>火災に備えて、次の点に注意してください。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1.乾燥している土地、草で覆われた場所の使用に有効な、エンジンマフラーにスパークアレスタが装備してあります。</li><li>2.必ず、各地方の規定に従ってください。</li><li>3.乾燥した場所でログスプリッタを操作するときの予防措置として、消火器を用意することをお勧めします。。</li></ol>
3		<p>可燃性または引火性の物体に、運転中エンジンからの高温の排気ガスにより火災が発生することがあります。また、高温のエンジンに作動油が漏れたりすると発火することがあります。</p>
4	支持脚を固定	
5	ホイール固定	ログスプリッタが意図しない動きをしないように、ホイールをブロックします。
6	グリースを塗布	ウェッジが移動するビームにグリースを塗布します。(毎使用時)